

学校だより 7月号

令和8年7月1日発行

和歌山市立 楠見東小学校

今日から7月です

梅雨入りから、暑い日、涼しい日、じめじめした日、また、警報や津波注意報が発令されるなど、落ち着かない6月だったかと思います。そんな長い6月も終わり、夏本番を思わせるような強い日差しが校庭にも降り注いでいます。子どもたちは、汗をいっぱいかきながら、元気いっぱいに学習や運動に励んでいます。

7月になり、本格的な夏が近づいてきました。子どもたちが毎朝水やりをしている鉢植えも、強い日差しを浴びてぐんぐんと背を伸ばしています。

成長は自分の力で

さて、子どもの「成長」というものは、時に目に見えにくく、親心としてはもどかしく感じることもあるかもしれません。



例えば、「最近、宿題を後回しにして遊びたがるけれど、大丈夫かしら……」「何かあったとき、自分の気持ちではなく、お友達の行動ばかりを言い訳のように説明するようになったな……」といった姿に、不安や焦りを覚えることはありませんか。

もちろん、宿題は先に済ませるべきですし、トラブルがあったときは自分の言葉で自分の気持ちを伝えることが大切です。気になる姿があれば、その都度正していくことも必要でしょう。しかし一方で、「子どもの成長には、寄り道や停滞がつきもの」という視点を持つておくことも、同じくらい大切です。

成長とは、一本道で右肩上がりに進むものばかりではありません。足踏みをしたり、少し回り道をしたりしながらエネルギーを蓄え、ある日突然、自分の力でぐんと飛躍するものです。



これは、植物の成長によく似ています。毎日眺めていても変化がないように見えますが、ある朝ふと見ると、大輪の花を咲かせていることがあります。目には見えなくとも、土の中では根がしっかりと深く、広く伸びているのです。子どもの心の中でも、今まさに同じことが起きているのかもしれません。

中国の古い格言に、このような言葉があります。

「根深ければ枝繁（しげ）く、源（みなもと）遠ければ流れ長し」

根が深く張っていれば、地上では枝葉が豊かに茂る。水流の源が遠く豊かであれば、川の流れは長く続くという意味です。

目先の変化を急がせるのではなく、今は見えない「根」を育てる時期。子どもの力を信じ、気になるところは優しく諭しつつも、時にはおおらかな気持ちで見守っていく。そんな温かい眼差しが、子どもたちの安心感となり、次の飛躍へのエネルギーへとつながっていきます。ご家庭でも、子どもたちの小さな「根っこの成長」を信じ、見守っていただければ幸いです。

（校長 岩崎 新太郎）